

「税金を減らしてほしい」「何にそんなに使っているの。」誰もがそう思ったことがあるのではないだろうか。私は「税金なんてなくなればいいのにな。」と税金の仕組みも分からないまま簡単に考えていた。

二年生のときにあった財政教室で「財務大臣になって国の予算案を作ろう」という授業を受けた。この授業は私にとって税金の大切さに気づかされ、国のお金について考える大きなきっかけになった。

この授業では日本の借金を減らす国の予算を考えるという内容だった。では国は何に一番お金を使っているのだろうか。一番は社会保障だった。そこで私達は少しでも社会保障を減らすことができないか考えてみた。しかし、少子高齢化が進んでいる日本では年金を減らすことや、子育て環境を整えることは日本の未来にとっても重要なことなので簡単に減らすことはできなかった。そこで社会保障以外の防衛費や公共事業費についても目を向けてみたが、ここでも日本を守ってくれている自衛隊やすでに削減が行われている公共事業はこれ以上減らすことができないと考えた。そうすると、歳入を増やすしか借金を減らす方法はない。税金はすでに歳入の六十%以上約七十億円も負担していてすでに日本の支出を大きく支えている。現在でさえ税金は高くなって、批判を受けているので税金を増やして歳入を増やすことはできない。最終的に授業内で納得できるような案を作ることはできなかった。

しかし、私は案を完成させる以上にこれから生活していく中で大切なことを学ぶことができた。特に、税金では十%の消費税でさえ「高いな。下げてくださいかな。」と思っていたこともあったが、税金の大切さを知った今では、この少しの十円でも日本を支えているんだなと感じるようになった。その他にも、私が住んでいる離島では部活の大会や学校行事の遠征を島が九割補助してくれたり、給食費が無料だったりなど多くの費用を村が負担してくれている。これも税金が関係していると知ってからは、大会は今まで以上に結果を出せるように練習を頑張ろう、給食を残さず食べようなど少しのことだが学校生活を送る中でも考え方や過ごし方が変わった。

このように税金を知ることで学ぶことはたくさんある。

それでも疑問に思うことや必要ないという意見もあると思うが、税金について知ることが理解してくれる人を増やす一番の近道だと思う。